

近くを横走すること、枝の分岐が少ないこと、茎は下方の部分だけ少し木質化していること、小枝の先端附近は可成り粗毛があるが一体に毛が少ないこと、葉も毛が少く下面脈上に散生する程度で表面は中肋上に少しあるが外は全く無毛であること、雄花序は遙かに大きくかつ花も大きく外面は紅色を帯びむしろオオサンショウソウに似ていること、雌花序は団塊状とならず疎に分岐して花梗も長い等の点で容易に区別できる。オオサンショウソウとは茎は分岐が多くかつ毛が多少あり丈が高くなること、葉が大きく下面脈上に粗毛あること、雌花序が団塊状とならず長い花梗を有する点で直に区別できる。牧野博士のオオハイミズ (*Elatostema iseanum* Mak.) は本種らしく思われるが標名で公表されたものがないので用いないことにした。杉本順一氏の日本植物検索表中のオオハイミズ (*Pellionia isean* (Mak.) Hatusima) は本種と同一物と考える。本種は東海道以南の暖地に広く分布し一般にはキミズと混同されている様である。

ヒメトキホコリ (新称) (*Elatostema yakushimense* Hatusima) 本種は屋久島の栗生部落から一寸山に入つた所及び国割岳にある高さ 10 cm 許の草で、一番近いのはヤマトキホコリであるが、茎、葉の両面の脈上及び葉縁に粗毛を散生すること、全体が矮小で果序及び瘦果共に小さい点で別種にした方がよいと思う。ヤマトキホコリの単なる縮小型ではないと考える。

□刈 米 達 夫・角 倉 一：有用植物の学名解 文庫版 234 p. 発行所 東京都文京区春木町 広川書店 定価 280 円

本書は昭和5年に出版された有用植物学名解の増訂版ともいふべきもので、薬用、農作、園芸、用材植物などの学名の語義を解説し、終りに著名なる命名者を略説したものである。

□刈 米 達 夫・木村雄四郎：最新和漢薬用植物 B5版 510 p. (索引共)、原色版口絵2、本文中の挿図 174. 発行所 東京本郷春木町 広川書店 定価 2000 円

本書は昭和3年に初版刊行以来版を重ねること数回、その間書名の一部変更もあつたが、その度ごとに増訂されてこの種の書として定評があつたが、いまこゝに改稿第1版を見るにいたつたので、久しい間の入手困難が解消された次第である。編集形式は各版を通しほぼ一貫しているが新事実や文献が増補されたため、従来からの本書利用価値が一段と高くなつたことは事実である。